

小島寛大

今回、初めて参加する機会を与えて頂いた **Asian Producers Platform Camp** では、30 名を超えるプロデューサー、制作者、アーティストと 1 週間の濃密かつハードなスケジュールを共に過ごす中で、貴重な繋がりが作ることができた。関係各位への感謝の気持ちと共に、この素晴らしい機会が今後も継続されていくことを期待したい。

APP Camp についてのレポートだが、キャンプメンバー共通のプログラムについては別に譲り、ここでは日本から私のみが参加したリサーチグループの事を報告しておきたい。

ホスト国であるオーストラリアのメンバーが提示したグループのテーマは、「**Creative Recovery**」。大規模な自然災害や気候変動、テロリズム、大規模な移民、さらには個人が抱える精神的な病や強い不安感の増大、薬物の乱用といった様々な切迫した課題に直面する現在、アーティストや我々プロデューサーは、アートの持つ創造力によって、どのように「リカバリー」に貢献できるのかという問いだ。

オーストラリアに対してピースフルなイメージしか持っていなかった私は、この大きく重いテーマに若干の戸惑いを覚え、同時に、若干身構えていた。**Creative Recovery** という聞き慣れない言葉を、勝手に「アートによる復興」という怪しげな日本語に変換していたからだ。

リサーチをコーディネートしてくれた **Creative Recovery Network** の **Scotia Monkivitch** さんとの最初のミーティングで、今回キャンプが行われたメルボルンを含むヴィクトリア州は、しばしばトルネードや洪水、山火事といった大規模な自然災害に見舞われることを知った。特に 2009 年には **Black Saturday** と呼ばれる大規模な山火事で多くの被災者が出たそう。また、近年、メルボルンでは海外から訪れる多くの移民・難民を巡って社会問題が起きていることも知った。

その翌日から 2 日間という短い日程ではあったが、テーマに関する事例として、小児病棟で行われているアートプロジェクトとフェスティバル「**Cartwheel Project and Festival for Healthy Living**」、**Black Saturday** で多くの犠牲者が出た **Strathewen** という小さな町で現在まで継続して行われている **Tree Project** と **Strathewen Memorial**、ヴィクトリア州の各地域のアート活動を支援する組織 **Reginal Arts Victoria**、ヴィジュアル・アートを通して困難を抱える若者を支援する非営利組織 **Visionary Images**、**Arts House** とアーティストによる共同プロジェクト **REFUGEE project** の方々にお話を伺うことができた。

被災したコミュニティでのグリーンケア、DV やホームレスを体験した青少年との作品づくり、大規模災害時の非常食に関するプロジェクトなど活動の形は様々だ（各プロジェクトの詳細は、下記の **URL** を参照されたい）。今回お話しを伺った活動に共通して言えることは、アートとしての作品づくりでもあり同時に、困難に直面している人々が、その人々自身のために行っている創作活動でもあるということだ。そこでのアーティストやプロデュ

ーサーは、作家であると同時に、それぞれの専門領域を活かしてその活動をリードしたり助けたりするコミュニティ・ワーカーとも言うべき存在だ。

「Creative Recovery」という言葉が意味することは、アートによる被災地の復興支援よりも、もう少し広いものを指しているように思う。喪失によって傷ついた心、差別によって奪われた尊厳、失われた家族や地域との繋がり、社会の構造が生む抑圧、経済的理由によって損なわれるチャンスなど、人間として生きる上で非常に深刻なダメージを受ける事態は、自然災害によって起こされた悲劇以外にも、たくさんある。「Creative Recovery」は、それらの深刻な状態からいかに回復し、それらを克服していくか、また、いつかは起こるかもしれない深刻な事態にどのように備えておくかというサバイバルのための考え方と言えるのではないだろうか。